

平成29年 第3回定例会

陳情文書表

平成29年陳情第3号

「赤レンガ門塀と緑の景観」の継承を求める
陳情書

陳 情 文 書 表

請 願 名	「赤レンガ門塀と緑の景観」の継承を求める陳情書
受 理 番 号	平成 29 年陳情第 3 号
受 理 年 月 日	平成 29 年 8 月 23 日
請 願 者 の 住 所 ・ 氏 名	龍ヶ崎市 4108 番地 赤レンガ保存実行委員会 委員長 久保田 房子 外 7 名
付 託 委 員 会	環境生活委員会
<p>【陳情趣旨】</p> <p>竜ヶ崎駅の近く、明治末に建てられた諸岡邸の赤レンガ門塀は、東面南面で約100mの長さがあり、門柱4本のうち大柱2本の高さは3.8m。八間道路から眺めると、背後の樹木に赤レンガが広々と広がり、市民にとって強い印象を与え続け、まちに残って欲しい建造物として挙げられていました。近代化を象徴する建材、煉瓦による建造物が地方に伝播し、この諸岡邸門塀が建てられてから約100年、堅牢に立ち続けました。全国的にも特筆されるべき規模を持ち、門柱のデザインも秀逸、また、東京駅と同じ覆輪目地（フクリンメジ）で門柱4本が施工された貴重な遺産でした。</p> <p>2006年に、土地の別途使用により消滅の危機にあった赤レンガ門塀を、龍ヶ崎の歴史的建造物として残そうと赤レンガ保存実行委員会を発足しました。</p> <p>3年後、市と協議の結果、八坂神社奥の市有地をお借りして移築することに決定し、次の2点が合意されました。</p> <p>① 移築場所が旧市内であり「現地保存が無理な場合、移築は歴史的な関連性のある場所に」という保存の基本的な考え方に沿っていること。</p> <p>② 公園の樹木が赤レンガ門塀に映えて素晴らしい景観になること。赤レンガ門塀が米町にあった頃の緑を背景にしたイメージを引き継げること。</p> <p>さっそく合成写真「樹木を背景にした赤レンガ門塀」を制作して広報し、広く賛同を得ることができました。募金活動を継続し、助成団体探し、工事の発注と管理を行い、2015年秋の移築完成まで9年かかりました。資金は、市民の募金を中心に、市の協働事業提案と「東日本鉄道文化財団 地方文化事業支援」から助成を受けました。</p> <p>移築完成後、赤レンガと背後の樹木がすばらしいという感想が多くの皆さまから寄せられました。紅葉を背景にした赤レンガ門塀の写真が、りゅうほ一の表紙を飾り、また記事と写真が、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、東京新聞、茨城新聞他、地域情報紙に掲載されました。</p> <p>以上述べましたように、赤レンガ門塀保存の市民活動にとって、「明治の</p>	

赤レンガ門塀自体の価値」と「赤レンガと緑の景観」という2つの観点が、市との移築場所決定においても、またこの運動がより大きな市民の声になりえた過程でも重要でした。しかし移築工事が完成してから4カ月後、背後の樹木が、伐採、剪定されました。

樹間が狭すぎるので樹形を保つためということでした。私たちは、伐採され剪定された風景に衝撃を受けました。メタセコイヤは先端で唐突に切られ、本町通りからもその切り口が並ぶのが見えました。イチヨウは剪定後、秋にはわずかな紅葉を見せたに過ぎません。

60年以上この近くに住む方々は、こんな大規模の伐採剪定はかつてなかったということです。ご寄付いただいた皆さまからも、他市からの見学者からも、残念の声が届きました。

この伐採と剪定をきっかけに、景観の継承について考えさせられることになりました。100年以上龍ヶ崎に立っていた赤レンガ門塀は、今後、30年、50年、あるいはそれ以上に立ち続けるでしょう。その時、赤レンガの門塀だけがポツンと立つ状況になることなどを憂慮し検討した結果、この「赤レンガ門塀と緑の景観」の継承についての陳情となりました。

2015年の移築によって新たに創出された「明治の赤レンガ門塀と緑」の景観が未来の龍ヶ崎市民に継承されるようお願いいたします。ここで「緑」と表現したのは、現在ある樹木、メタセコイヤ、イチヨウなどの「現状維持」のみを示しているのではないということです。今ある樹木にも命があり、安全の面からの専門的な判断がありうると考えるからです。

【陳情事項】

1. 明治の赤レンガ門塀と背後の樹木を一体の「景観」として捉えて下さるようお願いいたします。将来、剪定や新たな植樹を行うような場合に「景観」という観点をご考慮ください。
2. 赤レンガ門塀の背後に何らかの形で「緑」があり「赤レンガ門塀と緑の景観」が未来の龍ヶ崎市民に継承されますようお願いいたします。